

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>当法人では「～人々の期待に応え 高い信頼を得るために～ 一、ヒューマニズムにたつて 高度な専門性を持って人のためにつくします 一、子供の輝く成長を願い 高齢者・障害者の良質な生活を支えます 一、地域に目を向け 福祉の係わりを見つけ取り組みます」を理念・福祉観としております。</p> <p>グループホームの方針としては、「人としての尊厳・人格を尊重し家族や地域住民の交流のもとで社会的な関係を保ちながら、その人らしく楽しく、心が元気になる、安全で行き届いたサービスを提供します。」としております。また、年度ごとに具体的な目標をかかげ、サービスの品質管理に努めています。</p>		<p>研修や会議を通して職員に理念の理解を深める機会を確保し、理念を実際のサービスに反映させている。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念実現のため管理者や職員は、理念や方針をグループホーム内に掲示し、毎朝の引継ぎ時に唱和しています。目標を達成するために業務の改善を各職員からの提案を受けて行っています。</p>		<p>理念実践のための年度ごとの目標は、管理者と職員と一緒に考えて決めます。またその実施項目は、管理者だけではなく全職員と利用者がともに取り組める項目を念頭に決めています。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の際、年度ごとの目標内容や目標の達成率を報告しています。20年度の目標に「利用者別の外出目標の設定」と他に「近隣、地域との交流を増やし、近隣のグループホームへの理解を向上させる」をあげ、後者の実施項目として「散歩時の挨拶」と「地域交流行事への参加・企画を6回以上」を実施。それぞれ100%の達成率でした。</p>	○	<p>21年度も年度目標を「地域住民と利用者との交流を深め、交流の機会を確保する」「利用者に生きがいを持って暮らしていただくために作品展を実施する」2点決め、実施項目は、「外出時の挨拶」「利用者別の外出目標の設定」「利用者別の作品展（特養地域交流会の際）の評価表の記入」とし取り組んでいます。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	9年前のグループホーム敬愛開設当時から散歩や買物、中庭の手入れの際、積極的に挨拶を交わしている。うさぎや庭の草花を通し交流がある。利用者も中庭から小学生の下校見守りを行っています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	平成18年度の介護保険改正で開始した運営推進会議を通し小学校区の民生委員や福祉委員、自治会役員との交流がもてました。地域の行事への参加も18年度から開始、年を追うごとに交流の機会が増加しています。	○ 地域の住民の理解が深まり、利用者や職員が無理のない状況で地域交流を進めたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者は、19年度より認知症キャラバンメイトに登録し地域に向けて認知症サポーター養成講座を始めました。20年度は、3回の認知症サポーター養成講座を開催することができました。また、認知症実務者研修や認知症開設者研修の実習施設として実習の受け入れをしています。	
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、評価の意義を理解しています。職員に対して研修を実施し、自己評価も職員全員で自己評価に取り組んでいます。法人の経営方針に「常に業務の改善により前進します」とあるように3者は、常に業務改善の姿勢で運営しています。	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の行事参加状況や実習の受け入れ報告、事故の報告、外部評価機関の評価状況の報告を行っています。また、利用者の重度化に伴う情報提供として「在宅での終末医療」の勉強会を実施し、家族の不安解消に努めています。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成する研修計画を毎年たて計画的に研修を受ける機会を確保しています。認知症実務者研修を管理者以外の職員にも受講させたいと応募しましたが、残念ながら受講できませんでした。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営者は、大阪認知症グループホーム協議会の役員を務めており、管理者や職員が地域の同業者と交流や連携の必要性を認識しています。また認知症対応型サービス開設者研修等の実習施設として実習を受け入れることで自事業所のサービスの質の向上を図っています。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は、平成20年度に職員のストレス軽減するために法人研修として管理者にメンタルヘルスケアについて研修を実施してストレス軽減に向けた環境づくりをしています。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、人事考課による公正な評価や資格取得者への資格手当の支給など職員が向上心を持って働き続けるよう努めています。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用にあたりまず家族と面談し、本人の生活の上での困り事や希望を聴き取ります。そして利用選考に当たっては必ず利用者本人との面談の機会を設け、本人の生活の上での困り事や希望を知る努力をしています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者が初回の相談から対応し、時間をかけて家族等の相談にのる努力をしています。入居のめどが立ちにく事をご理解いただき困ったことがあればいつでも管理者が相談にのる旨話しています。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談者が必要とする支援を見極め、適切なサービスや相談機関、医療機関の紹介など行っています。またグループホームの利用を希望されている場合、当事業所の待機期間が長いことを説明し他グループホームの空き情報の提供等を行っていません。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームの利用は、本人の納得と受容の上開始することが望ましく、家族にその趣旨を説明し、待機者の訪問を奨励しています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は、誰でも共同生活の中で役割を持ち、人として尊重される存在です。職員は、その認識をもとに利用者とお互いに協力し合い良好な関係を築いています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、利用者のよりよい生活を支えるため家族の支援の重要性を認識し、利用者の生活ぶりを包み隠さず報告、相談し家族と一緒に本人を支える関係を築いています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>		
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>		
<p><b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケースカンファレンスや朝の引き継ぎなどで職員間で情報交換をしたり、職員が確認しやすいよう最新のサービス計画を利用者ファイルの一番はじめに保管するようにしています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	業務日誌に利用者の活動や職員の支援内容が分かるように記録しています。またその活動時の様子や受入れ状況も記録するよう努めています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス計画は、計画作成者一人で作成するのではなく、本人や家族、必要な関係者との話し合いや意向の確認が必要であることを認識し作成しています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	サービス計画の見直しは、3ヶ月に1度の定期的に行うとともに必要に応じて随時現状に即した計画の作成を行っています。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫は、業務日誌に記録し情報の共有に努めています。重要な事柄については、個別のケース記録に転記し、ケースカンファレンス時の話し合いや計画の見直しに活かしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所が所属する法人の多機能性を活かし、家族の要望に答えPTによる機能訓練を受けれるよう支援したり、専門職による指導や助言、勉強会の開催を順次実施しています。	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員から要請のあった下校の見守りを子供好きな利用者にしていただいています。また、開園以来訪問するボランティアには趣味活動や外出支援など協力してもらっています。	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のおサービスの利用について本人から希望されたことは、ありません。希望や必要性があれば利用の支援を検討します。	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護の必要性を認識し、地域包括支援センターに要請し運営推進会議の際、成年後見制度等の紹介をしてもらったことがあります。今のところ差し迫って必要度は高くありません。今後必要時あれば協働するつもりです。	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、在宅時の継続支援と利用者や家族の希望を最優先にし、その関係を良好なものに築き、利用者が最適な医療を受診できるように支援しています。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>重度化や終末に向けた方針を家族や職員がわかりやすい形で共有していく取り組みをしていきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ここ3年間利用者の入退去は、ありません。情報交換はもちろんです。過去に同法人の特別養護老人ホームへ入所を希望する利用者に住み替えによるダメージを防ぐため、ホームへ出かける機会を増やしたり、ホーム職員との交流を支援したことがあります。</p>	
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は、利用者の尊厳やプライバシーが守られる工夫を利用者への言葉かけや職員間の会話など配慮して行っています。また、記録を含め個人情報の取り扱いを定めて実行しています。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>職員は生活の中で自己選択や自己決定ができる機会をたくさん持てるよう工夫して支援をしています。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>おおまかな生活のスケジュールは、決めていますが、利用者の希望や体調、気分にあわせてその人らしい暮らしを送れる様、他の利用者との関係も配慮して支援しています。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>利用者ごとの身だしなみやおしゃれの好みを知りお化粧の支援や定期的な美容院の利用支援をおこなっています。また、理容・美容は、地域や本人の希望の店に行けるよう支援をしています。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、利用者がお金の扱いを継続することの大切さを理解しており、利用者の希望や力に応じて利用者自身の買い物や喫茶利用時にお金を扱えるよう支援しています。		
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出支援の大切さを職員一同が理解し、18年度より年間目標に利用者の外出支援を取り入れ、一人ひとりが自分の希望や体調に合わせて日常的に外出できるよう努力しています。	○	20年度の外出目標達成率は、全体で97%の達成率でした。21年度も同様に90%以上の達成率を目指します。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	19年度より日常の外出支援のほかに希望外出や希望外食を開始しました。少人数で自分の選んだ外出先に出かけます。その際、ご家族も一緒に出かけてくださるよう声をかけています。また、家族と利用者が外出できるよう提案しています。		
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが家族や大切な人に電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしています。事実と違う内容の手紙をかかれる利用者については、ご家族と相談の上支障のない範囲で手紙のやり取りができるように協力しています。子供との電話についてもサービス計画に挙げています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員は、本人の家族、知人、友人等、馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう訪問しやすい雰囲気作りや湯茶を提供するなどしています。また、面会時間は、訪問しやすいよう特に制限していません。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新任の職員には、初任者研修として必ず身体拘束についての研修をおこなうこととし、具体的な身体拘束の意味を理解し、ケアに反映できるようにしています。また、法人は、身体拘束をしないケアを方針にし実践しています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの重要性は職員一同認識しています。中庭や本人の居室は常時鍵をかけず自由に入出りできるようにしています。玄関は利用者の安全の確保が出来ない時以外は鍵を掛けないようにしています。また、外出を希望し落ち着かない利用者が折られる際は、出来る限り外出に付き添うように努力をしています。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通し、定期的に利用者の安全確認ができるよう個別に時間を設定しています。特に夜間は、利用者ごとに巡回時間の設定や記録をおこなっています。巡回で睡眠に支障が出ないように、必要な利用者の居室(複数)のナースコールを夜間中『聴取』にして安全に配慮しています。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全ての利用者の状態を把握した上で環境整備を実施し、危険を防ぐ取り組みをしています。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の事故防止のためそれぞれのサービス計画書にその危険性を明記し、職員により理解しやすいように努力をしています。ケースカンファレンスシートにも課題としてそれぞれのリスクを記載し事故予防に努めています。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変に対応できるよう年間研修計画に緊急対応は、必ず組み入れています。また年度ごとに誤嚥対応や転倒時対応などを研修内容としてを実施しています。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策の手順書を作成し、消防署の協力を得て年2回の消火、避難訓練を実施しています。特に夜間の想定や、出火場所を変更して誘導方法を変えるなど取り組んでいます。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>利用者の事故やヒヤリハットについては、隠さず家族に報告します。また予測されるリスクについても家族に報告し対応策の検討を家族とともに考え、本人が安全で穏やかに暮らせる対応策を立てています。</p>	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎朝8時のバイタルチェックや入浴時に利用者の体調確認を行って異変発見に努めています。必ず異変時の記録、報告をおこない、情報の共有に努めています。また緊急な場合、管理者に速やかに報告し対応に結びつけています。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解するよう、全職員が夜勤の際に1日分の服薬準備をしています。服薬の支援と症状の変化の確認に努めています。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、毎日各利用者の排便状況を引き継ぎしています。特に便秘の人には、出来るだけ身体を動かす工夫や多めの水分や効果のある飲食物を勧めています。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>口腔衛生が利用者の健康維持に重要な要素であることを認識し、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしています。</p>	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一日の水分・食事量を把握できるよう記録を生活状況表に記載しています。水分・食事量の摂取量に問題がある利用に関しては、それとは別の詳しい記録を取り目標値の摂取を促します。食事が進まない利用者には食事の形態や提供方法など工夫しています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	法人共通のマニュアルや事業所独自の手順により予防に努めています。感染症予防のため面会者には手洗いうがいをお願いしています。		
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防のため食品や台所の衛生管理は大切です。そのため毎週1回の台所回りの衛生チェック、掃除、賞味期限確認を行っています。使用の都度まな板や布巾の消毒を徹底しています。食品の購入についても新鮮で安全な食材の購入を心掛けています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには、植栽や四季を通じてプランタンに花を植えています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は、昼夜を通して適切な照明や日光への配慮、テレビの音量や会話等の音への配慮が必要なことを理解して、利用者の快適な生活を支援しています。また、季節感を大切にしており、装飾や生け花は特に季節感が感じられるよう工夫しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆとりのあるリビングには、椅子やソファを配置しています。また、居室廊下側にもソファを置いて気の合った利用者同士が語りあえるよう工夫しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	利用者の居室は、本人の希望や家族の協力で本 人にとって好みのもや馴染んだもの（家族写真 など）を飾り、本人が快適に過ごせるよう工夫し ています。		
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	日中、常に換気をし、においや空気のだよみが ないように努めています。温度調節も利用者ご との状況に応じてこまめに行っています。また、 乾燥する冬場などは、加湿器を設置しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	利用者の状況を把握し、それにあわせて廊下や 浴室、トイレに手すりを設置しています。浴室 は、安全に入浴できるようシャワーチェアを脱 衣場にも置き事故予防に配慮しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	職員は、利用者の一人ひとりのわかる力を把握 し利用者に合わせた支援をすることで、利用者が 混乱や失敗を最小限に防ぎ、自信を持ち自立して 暮らせる工夫をしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	利用者に潤いある生活を送っていただくため運 営者は、建物外周の植栽に気を配り職員と利用者 で年間を通じて花や野菜を育てています。利用者 は、それぞれの役割を持ち活動したり、活動に参 加できない方は、その眺めを楽しんだりされてい ます。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム敬愛では、利用者と地域交流に重点を置き、利用者ごとに年間の外出目標を本人・家族・利用者担当・管理者にて決め、目標達成を目指しています。昨年度は、外出目標達成率は、全体で97%達成し、利用者個別でも全員93%以上の達成率でした。目標を達成できたことも事業所として評価できる点です。それにもまして利用者が外出に満足されて喜ばれる姿は、職員のやる気を引き出し介護職としてやりがいを感じることができます。